



塚本 美恵子 教授

塚本美恵子教授退職記念号の刊行にあたって

塚本美恵子先生は、2021年3月をもって駿河台大学を定年退職されました。1994年4月に文化情報学部（当時）専任講師としてご着任以来、26年の勤務になります。非常勤講師としての本学勤務（法学部）を入れると、30年以上の長きにわたり、本学・本学部の教育、研究、運営に多大な貢献をされました。長年のご尽力に深く感謝申し上げます。

塚本先生のご専門は英語ですが、それを発展させた異文化研究や映像番組制作も精力的に行われました。内部・外部の競争的研究費を多数取得され、国内のみならず海外まで赴かれて、多数の研究成果を公表されました。論文数は40編、学会発表・講演は50件以上と、学術面での貢献がよく数字に表れています。このほか、メディア等の取材を受けることが多く、これはお人柄に加えて、きちんとした研究・教育に立脚したものがあつたからだと言えます。さらに、先生は高等学校英語の教科書も、複数年にわたり執筆していらっしゃいます。教科書執筆は、将来を担う生徒に大きな影響を与える仕事です。教育・研究に加えて学内の業務をこなすだけでも大変な中、学外の重要な仕事も精力的こなす姿勢には頭が下がります。

学部運営にも貴重な意見を沢山いただきました。特に、女性ならではの視点からのご意見は、学部運営には有益で感謝しております。先生は、「授業では異文化対応力、つまり物事を多面的に捉える視点と対応力、そして自らの考えを伝えるコミュニケーション力を養うことを目標の一つとしてきた」とおっしゃっていました。そして、これを見事に実践されました。多様な視点を育てること、異文化を理解することを映像制作という取り組みを通して実践されていらっしゃいました。最後まで制作につきあうという熱意から学生には慕われ、すばらしいゼミ運営をされていたのを時折目にしました。その結果、しっかりとした学生が育ち、希望の企業に就職していったことも、先生が教育に掛けた情熱がもたらした成果です。残る学部教員も参考にさせていただければと思います。

私ごとですが、私が本学に着任した時に最もご指導いただいたのが塚本先生です。本学における先生との出会いは、私たち教員にとっても、極めて大切なものになったと実感しております。改めて御礼申し上げます。

最後になりましたが、塚本先生のますますのご活躍をお祈りするとともに、今後とも折に触れてご指導を賜れば幸いです。

2021年12月
メディア情報学部長 野村正弘